

商店街と農業生産者との連携による地産地消・地域交流の拠点

高松市中心部にある常磐町商店街では、通り沿いに立地していた映画館や大型店が撤退したことにより、商店街を訪れる買物客が大幅に減少するとともに、地域の生活を支える青果品のお店もない状況となった。商店街では、空き店舗対策事業に取り組み、高松市内の農産物生産者(合併前の旧5町村)等からなる協議会と連携し、新鮮な野菜や果物などの生鮮食品や地域の民芸品を販売する店舗、「おいでまい・阿蘇ええもんや」を開設し、地産地消と地域交流の側面から商店街の賑わいづくりを進めている。

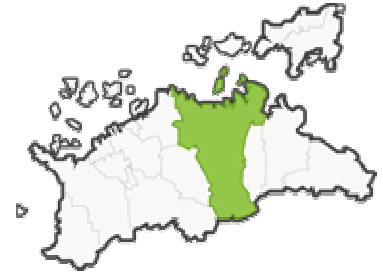
香川県高松市

総人口：419,165(人)
世帯数：173,630(世帯)
総面積：375.12(km²)
人口密度：1117.4(人/km²)
(平成22年3月1日現在)

高松常磐町商店街

市内中心部の中央通りから高松琴平
電鉄瓦町にのびる東西の通りに沿って
商店が並ぶ商店街。

通り沿いにあったダイエー等の大規模店舗が撤退した後は、来街者の減少をうけて商店街も衰退、空き店舗が目立つようになった。



背景ときっかけ

高松市中心部の常磐町商店街では、通り沿いに立地していた映画館やダイエー、ジャスコ等の大型店が撤退したことにより、商店街を訪れる買物客が大幅に減少、空き店舗数が3割を超えるなど、かつては若者でにぎわった商店街は著しい衰退を見せていた。

そうした状況に、常磐町商店街振興組合では空き店舗を活用した農産物等の販売による商店街の活性化を企画、商店街のほか趣旨に賛同した合併前の周辺5町の生産者、交流の深い徳島県美馬市の観光協会など11の団体・業者で構成される推進協議会が組織され、常磐町商店街にある商業ビルの一角に「おいでまい・阿蘇ええもんや」を開店させることになった。

取組内容

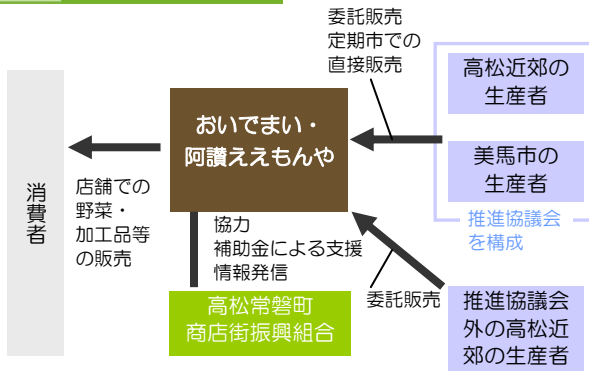
「おいでまい・阿蘇ええもんや」では、地元高松市周辺(合併前の旧5町村)の生産者から取り揃えた新鮮な野菜や果物などの生鮮食品や民芸品を販売する店舗として、高松市の空き店舗対策事業による補助金を活用して、平成20年10月に開店した。同店では地産地消を推進しており、単なる販売に留まらず、店員がお客に対して、農産物の食べ方や調理レシピを伝えるなど、コミュニケーションを図る取組みを行っている。

また、県境の徳島県美馬市の生産者とも連携し、開店当初から月1回美馬市の商品を販売する定期市を始めた。現在では、毎週火曜と木曜に美馬市の産直出品者が来店し販促活動を行っている。

- 名称：おいでまい・阿蘇ええもんや (平成20年10月開設)
- 所在地：香川県高松市常磐町1丁目9-1 常磐興業ビル1F
- 面積：約45坪
- 販売品：高松市周辺の野菜、果物等の農産物、花卉、民芸品、惣菜など
徳島県美馬市の野菜、うどん・味噌等の加工品など
- 販売方法：委託販売(手数料は、協議会会員は売上げの15%、協議会会員外は売上げの18%)
- 営業時間：午前9時30分から午後6時(定休日 毎週日曜日、祝祭日)
- 販売員：店長、女性パート4名、野菜部門担当1名。午前と午後の交代制で常時2名が店舗に出ている。



事業の仕組み



※常磐町商店街振興組合が、経済産業省、高松市の空き店舗対策の空き店舗対策助成制度（家賃補助）を活用し、店舗運営の支援をしている。

※生産者からの委託販売を基本とし、推進協議会員と会員外で手数料の割合を変えている。



取組効果

□常磐町商店街は、青果物を扱う店舗がなく、今回の空き店舗活用事業により、新鮮な野菜が安く購入できる店ができたことにより、近隣に住む高齢者の人気を獲得した。

□出品者や取扱商品が増え、売上も順調に伸びている。また、口コミによりお店の情報が広まっている。

□現在、推進協議会に所属する生産者は法人を含め10会員で、会員外の協力生産者も10名おり、地域の生産者のネットワークが広がりつつある。



取組上の工夫

□地産地消をテーマに、市内の新鮮な野菜のほかに、高松市周辺や県境の美馬市でつくられる特産品も多く取り揃え、多彩な品揃えで購買客を惹きつけるようにしている。

□商品を市場価格より安く提供することで、購買意欲を高めるようにしている。

□有機野菜や低農薬野菜など、農産物の棲み分けをして販売している。また、生産者の顔がわかるような商品説明、バーコードによる管理を行っている。

□店の広報は、市の広報や商店街のホームページへの掲載協力を得ており、宣伝広告費を極力かけないようにしている。



今後の展望

□常磐町商店街振興組合では、平成22年度から屋台村によるまちづくりを実施する。屋台村では、おいでまい・阿讃ええもんやの農産物を購入し、料理として提供することで、商店街における地産地消のシステムを構築する予定である。

□現在、高松空港と那覇空港との定期便の路線があるが、利用者数が減っていることから、両都市の交流を高めるきっかけづくりとして、沖縄のトロピカルジュース等の物産品を扱う、沖縄アンテナブースを設ける予定である。



阿讃ええもんや（外観）



店内で販売される新鮮な農産物



店内で販売される農産物加工品



店内で販売される民芸品